

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（看護学）	氏名	李 翁
学位授与の条件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目			
Factors Affecting Employees Work Engagement in Small and Medium-Sized Enterprises (中小企業従業員のワーク・エンゲージメントに与える要因)			
論文審査担当者			
主査	教授	新福 洋子	印
審査委員	教授	川崎 裕美	
審査委員	教授	折山 早苗	
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>ワーク・エンゲージメント（WE）は，仕事に関連する肯定的で充実した心理状態であり，活力，熱意，没頭によって特徴づけられ，労働生産性に関連することが示されている。少子高齢化により人口減少が進む日本において，将来の労働力を確保し，成長するためには，企業全体の99.7%を占める中小企業の労働生産性を高めることが重要である。このため，政府は大企業のみならず，中小企業に対しても従業員の健康管理を経営的な視点でとらえる「健康経営」の取り組みの普及を図っている。文献によると，WEは仕事や生活の満足感，ワークライフ・バランス，仕事の継続，健康問題（特に睡眠衛生）に関係することが示唆されている。また，ヘルスリテラシーと労働者の健康上の問題との関連も指摘されている。しかし，これらすべての概念とWEの関係を調査した研究は見当たらない。そのため本研究では，WEと中小企業従業員の要因との関係の概念モデルを提案し，要因間の関係性を明らかにすることを目的に，横断的質問紙調査を行った。</p> <p>健康経営の前向きコホート研究に参加した広島県に本社を置く3つの中小企業（仲卸業，小売業，運輸業）の従業員760人に調査票を配布し，有効回答を得た377人（有効回答率85.9%）のデータを分析した。調査時期は，2019年8月から11月であった。WEはユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度を，ヘルスリテラシーはEuropean Health Literacy Survey Questionnaire日本語版を，睡眠の質はピッツバーグ睡眠質問票を用いた。身体への関心度，仕事満足感と家庭満足感は順序尺度を用いた。統計解析は，尺度の信頼性を確認した後，業種間の基本属性や尺度得点の差異を検定するためにカイ二乗検定，Kruskal-Wallis検定および一元配置分散分析を行った。また，WEを目的変数に，他の要因を説明変数に重回帰分析を行った。また，ヘルスリテラシー得点低群と高群と各要因との関連を検討した。</p> <p>対象者は男性が多く，年齢層は40代が最多で，既婚者が多かった。仲卸会社と運輸会社</p>			

は男性の割合が、小売会社は女性の割合が高かった。年齢は運輸会社が有意に高く、他社と比較してWEも睡眠の質も有意に高かった。他の要因は3社で有意な差はなかった。

全体では、39.0%に睡眠障害が疑われ、ヘルスリテラシーは72.4%が低群に分類された。WEに関連する要因では、年齢($\beta = 0.28$, 95%CI: 0.18-0.32)およびヘルスリテラシー($\beta = 0.14$, 95%CI: 0.01-0.03)に正の影響が観察され、仕事満足感($\beta = -0.38$, 95%CI: -0.65--0.4)および睡眠障害($\beta = -0.11$, 95%CI: -0.08--0.01)に負の影響が観察された。ヘルスリテラシー高群は低群よりWE、睡眠の質、身体への関心度、仕事・家庭満足感が有意に高いことが示された。分析の結果、WEに影響を与えた基本属性は年齢のみであり、年齢が高いほどWEが高くなった。また、ヘルスリテラシーが高いほど仕事満足感が高く、睡眠の質が高いほどWEが高くなることが示された。

本結果から、中小企業の健康経営の実践では、ヘルスリテラシー、仕事満足感および睡眠の質を向上させることで、WEが高まることが示唆された。特に、ヘルスリテラシーを高めることはWEのみならず、睡眠の質や身体への関心度、仕事・家庭満足感の向上につながると考えられ、従業員のヘルスリテラシー向上のための教育的介入の検討によって、労働者の健康状態や労働生産性を上げる可能性がある。

以上の結果から、本論文は中小企業の労働生産性の向上につながる要因を示し、健康経営において注目すべき点を示した研究として高く評価される。

よって審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。